

AIを活用した議事録作成支援システム 及び AI-OCR技術を用いたスキヤニング システム(実証実験)について

愛媛県総務部行財政改革局
行革分権課 働き方改革グループ

目次

1. 行革分権課 働き方改革グループについて
2. AIを活用した議事録作成支援システムについて
3. AI-OCR技術を用いたスキャニングシステム(実証実験)について
4. その他の取り組みについて

1. 行革分権課 働き方改革グループ について

- ・平成31年4月に新設されたグループ
- ・愛媛県庁内における総務系事務の集約化・外部委託の推進、最新ICT技術を活用した業務効率化等を始めとした働き方改革に係る各種施策を推進

【ICT技術活用に係るこれまでの取り組み】

- AIを活用した議事録作成支援システムの導入、運用
(平成30年8月～)
- テレワーク(在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス)の導入、運用(平成31年3月～)
- AI-OCR技術を用いたスキャニングシステムの実証実験
(令和元年7月～)
- AI総合案内サービス(AIを活用した窓口応答システム)の県・5市町連携での実証実験 (令和元年9月～11月)

2. AIを活用した議事録作成支援システムについて

(1) 導入の目的

知事記者発表等をはじめとした会議録の作成(テープ起こし)については、

- ① 発言等をICレコーダーで音声録音
- ② 職員が手作業でテープ起こし(発言等の内容をパソコンに入力)
- ③ 入力完了後、内容を確認

という手順で行われているが、発言内容を聞き取りながらの入力作業となるため、特に②の作業について多大な労力(作業時間:会議時間の10倍程度)を要していた。

インターネット上で無料提供されている人工知能(AI: artificial intelligence) を活用した音声データの文書化サービスを利用し業務を効率化するシステムを構築。H30年8月から運用開始。

2. AIを活用した議事録作成支援システムについて

(2) システムの概要・構成

○庁内LANから独立した独自回線(モバイル回線)によりインターネットに接続した専用端末(ノートPC)上にシステムを構築。

○専用端末からインターネット上のAIサービス(Googleドキュメント上の音声入力機能)の提供を受ける。

※インターネット上に音声データを送信することから、情報漏洩リスクを考慮し、利用対象を公開する審議会等の会議録のみに限定

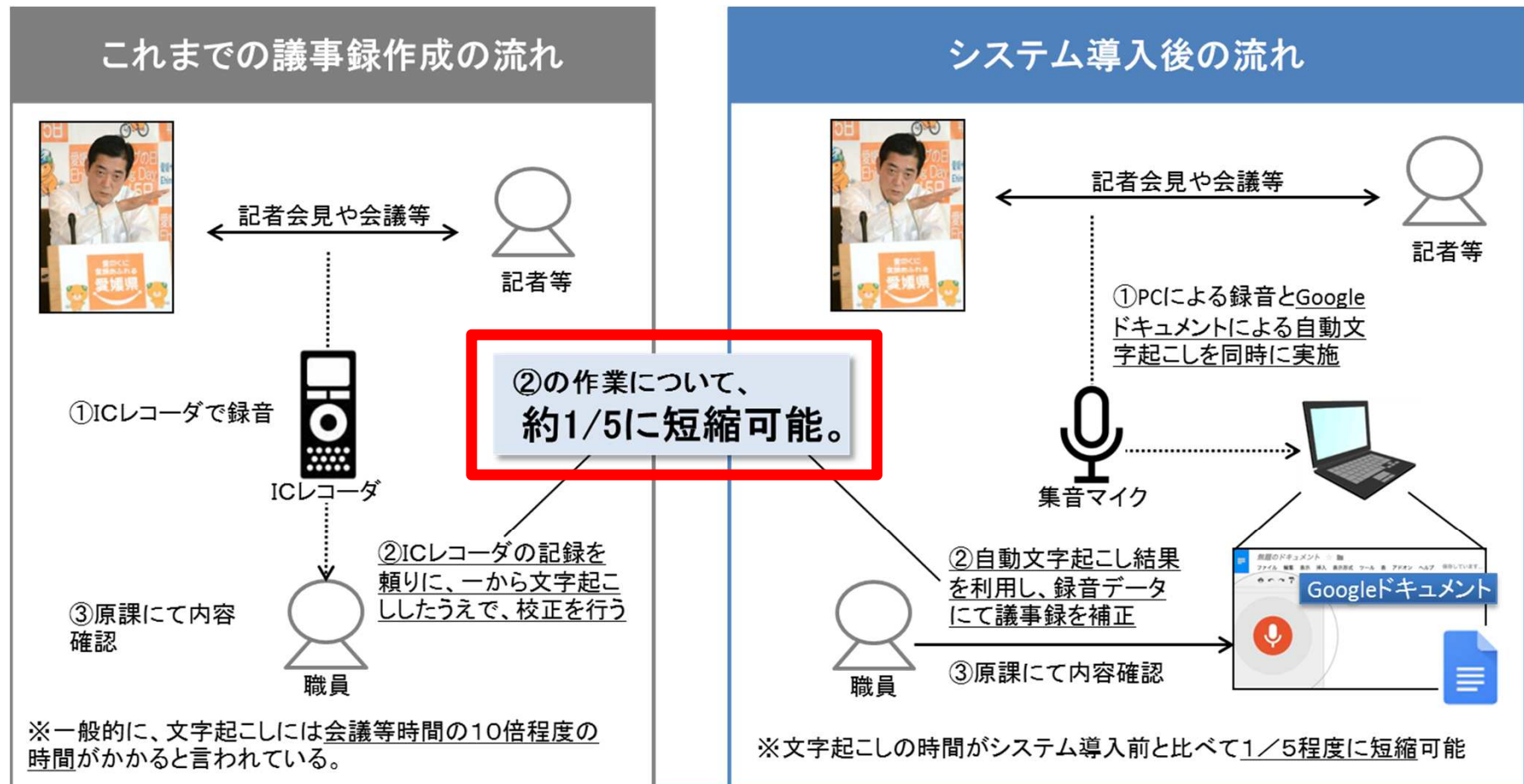
○AIの音声認識の精度を確保するため、集音システム(ミキサー1台、マイク5台)を専用端末に接続し使用する。

【構成】 ※現在は2セット体制で運用

- ・ノートPC(Microsoft Surface Pro6)
- ・集音システム(Yamaha YVC-1000)
- ・モバイル通信回線(愛媛CATV)※ノートPC内に設置済

2. AIを活用した議事録作成支援システムについて

(3) システムのイメージ



2. AIを活用した議事録作成支援システムについて

(4) 運用費用

- システム構築費用：約200万円
- システム運用費用：4,400円／月 ※モバイル通信回線費用のみ

令和元年度以降は、システム運用費用のみで運用

(5) 導入効果

運用を開始した平成30年8月から令和元年8月までの約13ヶ月間で、104回 計190.6時間の会議で使用。


職員の作業時間が1/5程度に短縮できたとすると、約1,525時間(賃金換算で約3,108千円)相当の事務量が削減されたと想定

3. AI-OCR技術を用いたスキヤニングシステム(実証実験)について

(1) 実証実験の目的・概要

○平成31年3月にテレワークの運用を開始

○県内のIT関連企業である(株)ファインデックス(スゴ技企業)から、テレワークの更なる利用促進に資する「AI-OCR技術(AIを用いた光学文字認証)を用いたペーパーレス化(スキヤニングシステム)」の実証実験について提案



AI-OCRを活用したスキャンを行うことによって、行政機関における過年度の文書検索が容易なシステム構築を目指し、実証実験を実施。

【令和元年7月から実証実験スタート(現在、実証実験中)】

3. AI-OCR技術を用いたスキヤニングシステム(実証実験)について

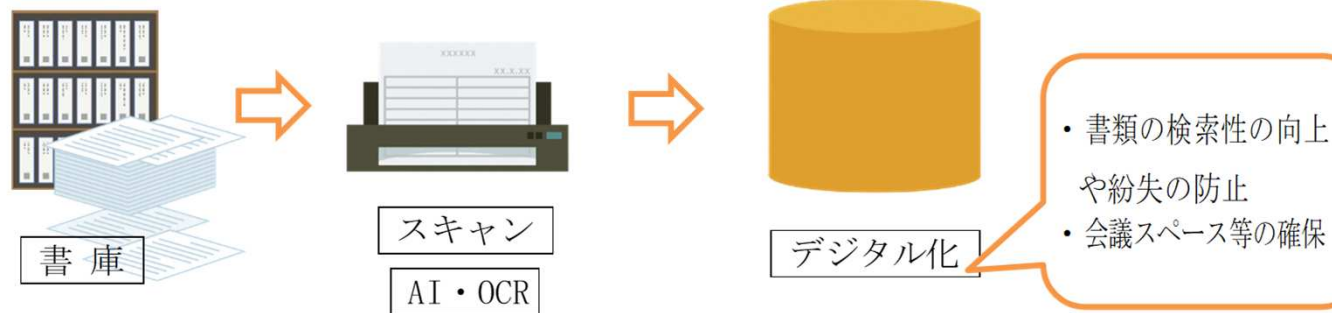
(2) 実証実験におけるシステム及び運用のイメージ

○行政機関における過年度の紙資料についてスキヤンを行い、AI-OCRやOCRの活用したテキスト情報の付与を行った形で電子データ化(PDF化)。

○電子データを、データに付与されたテキスト情報や登録時の資料情報等で文書検索が可能なシステムに登録。

一連のスキヤン及びシステム登録作業を、「えひめチャレンジオフィス」のオフィス職員が、オフィス内に設置した端末及びスキヤナにおいて実施

【実証実験のイメージ】



3. AI-OCR技術を用いたスキャニングシステム(実証実験)について

(3) システム導入により期待される効果

- テレワーク中においても過年度の紙資料の内容を閲覧可能
- 紙資料の内容のテキスト情報化による検索性の向上



テレワークに留まらず、過年度書類の電子化による業務効率化が期待できる。

4. その他の取り組みについて （「愛媛県AI総合案内サービス」の実証実験）

（1）概要

○県民からの問合せに対してAIチャットボットが対話形式で回答を行う「愛媛県AI総合案内サービス」の実証実験について、県と5市町（今治市、新居浜市、四国中央市、西予市、松野町）連携により実施。 【実証実験期間：令和元年9月～11月】

○AIチャットボットによる問い合わせ対応の自動化による職員の業務効率化、住民満足度・行政サービスの向上等効果について検証。

○県と複数市町が連携して同一のAIチャットボットシステムを活用する全国的にも先駆的な事例として、システム運用上の課題等を検証。

4. その他の取り組みについて (「愛媛県AI総合案内サービス」の実証実験)

(1) 概要

○実証実験であることから、システムが設定している38分野のうち、県・市町ともに利用度が高いと思われる16分野を選定

イベント	市政(県政)情報	観光	総合相談
妊娠出産	子育て	労働・雇用	高齢者・介護
健康医療	防災	国民健康保険	国民年金
税	公共施設	福祉・生活支援	自治体の情報・概要

4. その他の取り組みについて （「愛媛県AI総合案内サービス」の実証実験）

（2）イメージ

AIスタッフ総合案内サービスについて【利用イメージ】

住民からの問い合わせをチャットボット形式で受け、AIが自動回答。
曖昧な質問でも、対話形式で趣旨を把握し、ホームページに誘導。



出典:三菱総合研究所および日本ビジネスシステムズ

4. その他の取り組みについて （「愛媛県AI総合案内サービス」の実証実験）

（3）イメージ【愛媛県版】 ※11月30日まで公開

<https://www.pref.ehime.jp/h10900/aichatbot/aisougouannai.html>

【画面イメージ】



実証実験用LINEアカウント
二次元コード



※LINE からご利用いただく場合は、実証実験用 LINE アカウントとの友だち登録が必要になります。実証実験用 LINE アカウントについては、次ページの二次元コードをスマートフォンの LINE アプリで読み込んでいただくか、上記 URL をご確認ください。

4. その他の取り組みについて (総務系事務の集約化・外部委託)

(1) 概要

○限られた人員の中で、県行政の高度化を実現するため、令和元年11月から総務系事務の集約化・外部委託を開始し、各部門の事務負担軽減を図り、政策立案機能等を強化する。

○職員の負担及びコスト削減の観点から、標準化・集約化・外部委託化・システム化などの改革に、段階的に取り組む。

(2) 対象

○対象とする事務 現在、各課室で処理している庶務・人事・給与・物品調達等の総務系事務

※令和元年度においては、第一段階として、本庁知事部局の一部の総務系事務について外部委託を実施。

4. その他の取り組みについて (総務系事務の集約化・外部委託)

(3) 改革推進フロー

